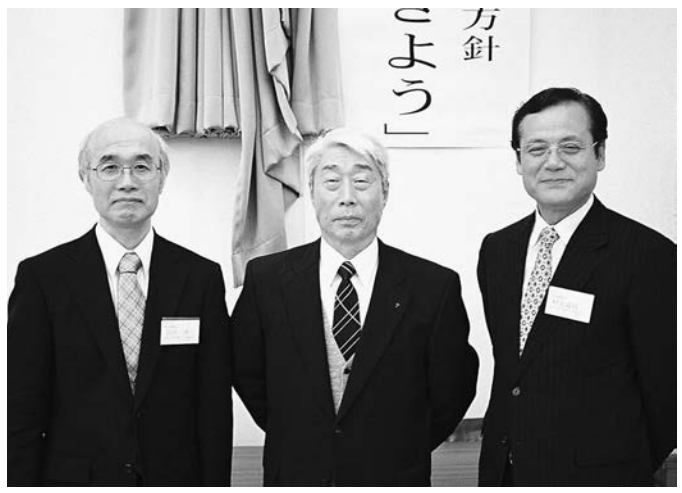
Title:sinpou4725kai.ec7 Page:1 Date: 2013/05/28 Tue 14:33:20

教団新報

定 価 1部140円（本体133円〒共200円）
予約購読料 1年分 〒共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140―9―145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内藤留幸
編集主筆 竹澤知代志
印刷所 株式会社きかんし



左から白戸副議長、邑原議長、村上書記

2011年度 ② 教区総会報告

奥羽 中部 兵庫 東海 東中国 西中国

〝脱原発〟の議員提案可決

奥羽教区 第66回総会が、5月24～25日、奥羽キリスト教センター（盛岡）を会場にして開催された。開会時、正議員114名中100名の出席を数えた。

組織会を終えて直ちに、按手受領願いを全会一致にて可決し、1名の正教師按手を執行した。

「議長報告」で、邑原宗男議長は、東日本大震災における津波、地震による被災教会として宮古、新生釜石、大船渡、八戸小中野、千厩、また内丸を挙げた。関係施設を含めるとなお多くの被害が及んでおり、今後の調査継続に言及した。常置委員会の下に緊急支援委員会を組織し教区内被災教会支援募金を立上げ、奥羽キリスト教センターを中心に救援物資受付・配給、広報活動に務めてきたことを報告した。

また、福島における原発事故を受けて、教区内に核燃料サイクル基地を持つことから、今後の取組みの必要を述べた。

教区内の教勢減少は顕著で、今期長期宣教基本方針を開始した03年度に比べ、10年度現住陪餐会員は1割強減で1、825名となった。教勢減少による教会負担金減額に伴い、教区財政見直しを財務委員会で行ったことを報告した。財政検討に留まらず、13年度より実施を予定している第6期長期宣教基本方針を策定してゆく中で抜本的な教区機構改正に着手することの必要を述べた。

第65回教区総会における教団新報に対する取材拒否については、第64回教区総会報告記事訂正に新報が応じなかったことが理由と報告した。

「10年度決算報告」では、今年度末に東京教区の教区活動連帯配分金拠出留保が解かれ、過去2年度分479万円が送金されたため、これを教職謝儀互助会計に繰入れたことが報告された。

震災関連では「教区内被災教会支援会計」を時限的別途会計として設置したこと、3月末現在、教団、各教区、教会、個人等から震災見舞金、支援金として1、600万円が届けられたことが報告された。

「教師謝儀互助会計規定改定」を可決した。これまで明文化されずに運用されてきた。同一生計にある複数教職には、そのうちの1名に互助支給することを規定に明記した。

また、受給者を謝儀基準年齢相当額の75～80%に収入実額が満たない者としてきたのを、55～80%に下限を引き下げ運用幅を広げた。さらに支給額上限を120万から100万に引き下げた。限られた資金の中、今後も受給者増加が見込まれることから、今回の改定となった。

第5期教区長期宣教基本方針（03～12年度）「さあ、共に生きよう」の主題のもと「11年度教区宣教計画」を可決した。聖句イザヤ43・19を掲げて、震災の大きな被害に直面しているが、その中に主が始めてくださる新しいことを信仰の目を持って見出したい、としている。教区の「一つなる教会」の伝統を受け継ぐこと、第5期総括と第6期方策の協議に入ること、常設委員会計画、主な教区集会計画等が決められた。

「11年度経常会計予算案」は、教会負担金が58教会・伝道所中7割強の教会・伝道所で減額となり、負担金収入は前年比90万円減となる。減額分を補填するため教区開拓伝道資金会計からの繰入れを、教区体制・運用見直しまでの臨時処置として承認し、総額2、536万の予算案を可決した。

「原子力発電、核燃料サイクル中止、自然エネルギー転換を求める決議」は、今回の震災、福島原発事故を受けての議員提案で、声明の表明と原発事故の検証を行うことを提案している。原案では一つの提案となっていた声明の表明と事故検証を分割した上で、脱原発の姿勢を明確にした修正案が提案され、賛成多数により可決した。

教団問安使である内藤留幸総幹事に対しては1時間強の質疑で、教団の震災対応が質され、被災教会議員から被害状況が強く訴えられた。

来賓として出席した韓聖炫（ハン・ソンヒョン）在日大韓基督教会関東部会長らは、挨拶の中で震災の見舞を述べ、また見舞金を、直接、教区に手渡した。

三役選挙結果

【議長】邑原宗男（江刺）、
【副議長】白戸清（野辺地）、
【書記】村上義治（舘坂橋）。

常置委員選挙結果

【教職】雲然俊美（秋田桜）、松浦裕介（下ノ橋）、江戸清（奥中山）、飯田敏勝（大曲）。
【信徒】鈴木務（秋田高陽）、浅沼千春（秋田桜）、松尾亨（青森松原）。

（渡邊義彦報）

奥羽

被災支援へ会計費目新設

中部教区 第61回総会は、5月24～25日、名古屋中央教会に正議員203名中、開会時189名が出席して開催された。

1日目は、来賓挨拶、諸報告、三役選挙、常置委員選挙が行われた。

問安使として派遣された岡本知之教団副議長は「2011年度教区総会への挨拶」に加えて、沖縄教区訪問の経過を報告し、更に東日本大震災について、海外と国内それぞれから募る献金額と、その具体的な用い方について説明した。

2日目は隠退教師感謝会から始まり、5名の准允式後、常置委員選挙結果が発表され、諸報告が続き、議案へと進んだ。

大きな議論を巻き起こした報告や議案はなく、すべて賛成多数で、承認あるいは可決された。その中で、教区がどう主体的に伝道に関わることができるか、という課題が示された。

例えば、開拓伝道を教区の責任において実施するという決議のもとに進められてきた桃花台伝道所について、移転場所の検討が続けられているが、状況は厳しい、との報告があった。

また、支援のあり方を考えさせる議論が幾つかあった。

その一つは、常置委員会報告内の「在広韓国人・朝鮮人被爆者救援会（現地五人委員会）」への中部教区平和聖日献金を巡る質疑応答で見られた。

当該問題が起こった経緯を知りたいとの要望に、高橋潤議長は次のように述べた。10年ほど前に会計報告を出してほしいとの意見があり、当時の教区社会部と五人委員会が協議して、会計報告がなされるようになったが、その後、信頼性を増すためにという当方の意図が十分伝わらずに、五人委員会側は会計処理を疑われていると受け止め、そこから問題が始まった。

この件について、金銭授受とそれに付随する事務処理だけの問題ではなく、戦争をめぐる歴史的な背景に対する配慮や、被爆者と共に歩むという本当に大切な事柄が置いてきぼりになっているのではないかとの意見が出された。


中部

もう一つは、東日本大震災に関する二つの議案を巡る質疑応答においてである。

○議案2「2011年度宣教実施目標（案）」に盛り込まれた「東日本大震災被災教会再建のために協力し、祈る」ことを内容とする件。

これについて、能登半島地震被災教会再建献金の残金処理として、当該支援に回すことを検討してほしいとの意見が出された。また、岡本教団副議長によって示された「地域の人々の救いに仕える教会の再建」という教団の理念との整合性を図れば、地域の復興がこの文言に含まれているとの認識が確認された。

○「2011年度通常会計予算に新しい費目を設け、会堂融資金会計より500万円を繰り入れ、教団救援対策本部の募金を待って、常置委員会の議をへて予算執行する」ことを内容とする議案5「東日本大震災被災教会等支援に関する件」。

人が共にいて一緒に重荷を担う人的支援を視野に入れながら、また現在ボランティアの運営など実際に活動している東海フェローシップに協力しつつ、教区として具体的に何ができるかをも検討してほしい、との意見が出された。

原発の問題に関して、教区内にも原発銀座（福井県南部）と呼ばれる現実があるという指摘があった。

三役選挙結果

【議長】井ノ川勝（山田）、
【副議長】横山良樹（半田）、
【書記】田口博之（名古屋桜山）

常置委員選挙結果

【教職】加藤幹夫（阿漕）、勇文人（若草）、渡部和使（名古屋北）、小堀康彦（富山鹿島町）、横井伸夫（金沢）、滝口洋子（鈴鹿）
【信徒】須田静代（名古屋中央）、大杉弘（若草）、野村敏彦（名古屋桜山）、辻康（四日市）、平尾貴美子（幸町）

（秋葉恭子報）

左から横山副議長、井ノ川議長、田口書記

Title:sinpou4725kai.ec7 Page:2 Date: 2013/05/28 Tue 14:33:49

「共存共感」をテーマに
～分かちあい、響きあう豊かさ～

兵庫教区 第65回／「合同」後42回定期総会が、5月15～16日に開催された。会場は、ユニトピアささやまという保養施設であった。神戸市内の教会以外を会場にするのは2004年以来ということである。神戸市内で開催するよりも、交通費・宿泊費などの問題で総会の費用は倍程度必要になるが、このことで教会同士の横のつながりを再確認しようという兵庫教区の姿勢があらわされたといってよいだろう。総会のテーマとして「共存共感～分かちあい、響きあう豊かさ～」が掲げられたことも、この総会の方向性をよくあらわしていた。総会開会時の議員数は、正議員213名中157名であった。開会礼拝後、東日本大震災関連の報告のときがもたれた。報告では特に、今回の震災における被災者生活支援・長田センターの働きについて報告された。その他、教区内の信徒大会についての発題と、教区内教会互助についての発題がなされ、それを受けた形で、夕食と同時に分団のときが持たれた。夕食後、教区議長報告が1時間にわたって丁寧になされ、会計報告をもって1日目のセッションが閉じられた。

2日目に入り、諸報告の後、本格的に議案が審議された。議案8号『兵庫教区クリスチャン・センター会計不正流用問題総括に関する件』で、提案者の教区常置委員会は、この議案の承認をもってこの件に関わる全ての事柄を終結したいと説明した。議場には、2004年4月に発生した、この問題に関する77ページにわたる、膨大で、丁寧な資料集が配布された。議場は、この丁寧な資料集に関して一定の評価をしたが、なおこの問題の責任のとり方、再発防止に関する事柄など、この問題をこの時点で終結することに対して時期尚早との意見が多く出され、2件の修正議案が否決され、原案も140中57の賛成で、少数否決された。

議案7号『准允・按手執行に関する件』では、日本基督教団の二種教職制に対して長く問題提起をし続けている教区として、なかなか教団との議論が進まない状況をどう考えるのか、これから教団に対してどのように問題提起を続けていくのか議論がされた。その後、按手希望者の所信表明において、議場にいる全員での按手を希望する意見が出された。これに対し小林聖議長は、教団に按手を委任されている立場から、現時点で議場にいる全員での按手に踏み切ることはできないと回答し、なお教団と議論を続ける中で教区としての姿勢を明らかにしていきたいと述べ、4名の准允と、議長一人による4名への按手が行われた。

教団問安使挨拶は、同じ兵庫教区の岡本知之教団副議長により行われた。岡本副議長は冒頭、石橋秀雄教団議長による教区総会への挨拶文の中に沖縄教区への言及がないことを謝罪し、長田センターを中心とした東日本大震災への対応に対し、兵庫教区の底力を見たと感謝を述べた。また、震災後の対応として、教団としてなるべく早い時期に福島原発周辺に入りたいと述べ、加えて、大阪教区で起きた牧師不当逮捕に関し、抗議文を送ったことが明らかにされた。なお、問安使との質疑応答は時間の都合で行われなかった。

その他『東北地方太平洋沖大地震・大津波、福島原子力発電所事故被災三教区の日常的教区活動支援に関する件』『北村慈郎教師免職処分に抗議し、処分の撤回を求める件』『合同のとらえなおしと実質化に関する件』建議案『東北関東大地震・大津波、東京電力福島第一原子力発電所事故に関する件』等が可決された。

（小林信人報）


議長一人による按手

負担金2％削減予算案承認

東中国教区 第60回総会が5月23～24日、倉敷教会を会場に行われた。開会時、正議員97名中78名の出席があった。

議長報告では、特に東日本大震災被災地支援が取り上げられた。また、第37回教団総会における議事運営を不当とし、キリストを告白し、聖書に立ち、対話を大切にし、歴史を直視する教団を再生していくことが大切だと述べられた。また、倉吉復活教会の教団加入が3月22日に承認されたこと等が報告された。

「常置委員会報告・教勢・教務報告」においては、教会数49に対して教師数が46名であり、兼務、代務が12教会あること、2005年～2010年の6年間で現住陪餐会員が207名減少していること等が報告され、伝道に向けた取り組みの大切さが強調された。

また、教区が2年前から5年計画で開始したプロジェクトチームの報告があり、以下が提案された。①負担金予算のスリム化と有効活用、「聖域なき見直し」を掲げる「教区機構改革と教区財政構造の転換」。②主日礼拝の困難な教会への教師派遣の制度化。③教職が互いに研鑽を積み、共同宣教の可能性を探る。④役員研修と情報交換。⑤教会強化費の位置づけを明確化し、教会が積極的に活用できるようにする。⑥キリスト教主義施設との協働。

また、財務委員会の報告においても、教区財政の縮小とスリム化に向けた具体的な対応が喫緊の課題として述べられ、教区負担金の2％削減が盛り込まれた予算案が承認された。

東日本大震災救援対策本部長として、石橋秀雄教団総会議長が教会の被災状況と教団の支援計画を報告した。「地域に仕える教会の再建を目指して」とのテーマと共に、礼拝共同体の再建の必要性を述べ、復興に向けた祈りと支援を訴えた。これに関し、「教会と地域を分けることなく、地域に働きかけてほしい」、「壊滅的な状況の中では、目の前の生活のサポートが必要とされていると思われる。支援者と被災者の間に温度差がないようにしてほしい」等の意見が出された。また、戒規に対する反発が述べられた。

議案第15号『北村慈郎前紅葉坂教会牧師の免職処分に対する抗議とその撤回を求め、聖餐についての学びを教団として深めるよう薦める声明』に関する件」が上程された。声明文は、審判委員会が、総会直前に教師委員会の決定を追認する形で戒規を決めたこと、また、第37回教団総会において、議案整理委員会が、いくつかの教区から出されていた聖餐と戒規に関する議案を葬り去ったことを不当だと指摘し、聖餐について話し合うことの必要性が述べている。反対の立場からは、戒規は悔い改めを求めるものであって人格を否定するものではないこと等が述べられた。賛成の立場からは、40年間、牧会、伝道にあたってきた牧師を免職にするのは、良心的に受け入れがたい等の意見が出された。67名中46名の賛成で可決された。

三役選挙結果
【議長】宇野稔（倉敷水島）、【副議長】服部修（蕃山町）、【書記】指方信平（旭東）

常置委員選挙結果
【教職】宮﨑達雄（倉敷）、延藤好英（和気）、小松茂夫（鴨方）、橋原正彦（鳥取）、【信徒】松田章義（鳥取）、太田直宏（岡山）、土井しのぶ（高梁）、難波幸矢（光明園家族）

（嶋田恵悟報）


左から指方書記、宇野議長、服部副議長

「伝道に熱くなっている」教区

東海教区 第90回総会は、5月24～25日、松本市のホテル翔峰を会場に、開会時の登録数で正議員202名中、163名の出席をもって開催された。

他の教区では見られなくなった独特の三読会方式を持つことから、冒頭、松木田博副議長は、特に三つの分科会（第二読会）の運営方法について説明した。

小出望議長の報告では、教区内の諸事業に先んじて、前文を東日本大震災に充て、本文の「1．教区について」に於いても、①で、緊急に「救援活動支援献金」を立上げ、奥羽・東北教区にそれぞれ100万円、150万円を届けたことを報告した。報告の質疑では、「負担金を減らし、多すぎる集会を再検討しスリム化すべき」など教区財政について意見が述べられた。

また、「一人でも多く人々にキリストの福音を伝えることは、教会の使命です。今、教団の伝道する姿勢がはっきりと打ち出されたことには、神が与えられた時を感じます」と述べ、「伝道する教団」の姿勢を高く評価した。議員からは、教師免職問題等に関連して、「翼賛的な体制を取る必要はない。二分化・多様化は豊かさだ」という意味の、教団・教区への批判的意見も述べられたが、正副議長、宣教委員長選挙で何れも次点を大きく引き離して一回で当選を決め、現在執行部の伝道重視路線への支持が証明された形となった。

問安使の石橋秀雄教団議長は、『伝道に熱くなる教団』を提唱しているが、東海教区は、『伝道に熱くなっている』教区だ」とエールを送った。

初日議案審議を終えた後、夜9時から「記念式」が持たれた。教師2名、信徒127名全員の氏名が朗読された。司式者の山本将信牧師（篠ノ井）は「巡礼の手によって伝えられた福音の灯火を次の世代に渡して行くことができるように…灯火を掲げて御許に召された人々を、聖徒の群れに加えて下さいますように」と祈った。

また、閉会時、隠退教師への暖かいねぎらいの言葉が述べられ、功労金が手渡された。『伝道に熱くなっている』教区は、篤い交わりを持つ教区であった。

四役選挙結果
【議長】小出望（静岡草深）、【副議長】松木田博（甲府）、【書記】瀬谷寛（駿府）、【伝道委員長】宮本義弘（沼津）

常置委員選挙結果
【教職】小林眞（遠州）、北紀吉（愛宕町）、鷹澤匠（信州）、佐々木美知夫（静岡）
【信徒】的場武彦（下田）、原田勇（伊那坂下）、稲松義人（遠州栄光）、八嶋由里子（沼津）

（新報編集部報）


夕食、会場は温泉宿の大広間、和やかに

Title:sinpou4725kai.ec7 Page:3 Date: 2013/05/28 Tue 14:34:18

「免職」撤回を求める声明採択

西中国教区　第60回総会が、5月5～6日、エソール広島において、開会時、正議員132名中119名の出席で開催された。

議案第2号「教区総会議長総括ならびに常置委員会報告に関する件」で、北村慈郎教師への戒規適用撤回の申し立て、沖縄教区との合同のとらえなおし、上関原発建設計画の見直しについての取り組み、米軍再編に抗議し軍事基地撤去を求めて行くこと、性差別問題に対する取り組み等についての報告がなされた。この報告に対して、伝道の姿勢を明確に打ち出すべき、教勢報告のあり方を見直すべき等の意見が出された。また、東日本大震災の被災地支援と状況聴取のために教区が派遣した2名の教師から、被災地の困難な状況と支援の必要性が報告された。

教団問安使・石橋秀雄教団総会議長が、東日本大震災に関して報告し、もって挨拶とした。議長に対し、昨年、西中国教区が出した免職に対する抗議についての応答が求められ、異なる意見を排除すべきではない等の意見が出された。議長は、北村氏は戒規、免職中であり、帰って来る道があること、教憲教規に立ち返ってから、神学的議論をし、教憲教規の変更を考えるという手続きが重要であること、未受洗者配餐によって教会の公同性が失われること等の見解を述べた。

また、議案第14号「北村慈郎教師に対する『免職』撤回を求める声明を採択する件」が上程された。撤回を求める理由に、以下が挙げられた。①教師委員会の戒規申立受理は第36回教団総会議案44号を可決した総会の意志に反している。②決定の根拠条文は直接聖餐の在り方を規定するものではない。③戒規規定に至る過程で北村教師との面会が行われておらず、「密室裁判」とのそしりを免れない。④教団信仰告白の制定の際、解釈にある程度の自由は認められるべきものであり、法的措置の前に神学的議論の領域が設定されなければならないとの付帯事項が確認されている。

これに対し、教勢低迷する中、仲間である教師を免職するのは拙速である。また、執行部は、教憲教規の恣意的な運用をしている等、多くの賛成意見が述べられた。

一方、北村牧師には何度も未受洗者への配餐を止めるようにとの勧告がなされて来たこと、また、教団の姿勢は、紅葉坂教会の教会規則の変更を差し戻した時から明確にされており、突然戒規が執行されたのではないとの主張がなされた。

結果、声明は可決された。

また、議案第18号「東日本大震災被災地支援に関する件」が可決され、被災地に対する中長期的支援を視野に入れた取り組みを行うこと、被災地支援特別会計を設置し、教区運営資金から300万円を繰り入れること等が決められた。

この他、教区の宣教活動をより有機的に機能させるために、教区の機構を改編する作業に着手する、議案第11号「教区機構の改編に向けた作業に着手する件」が可決された。背景には、各委員会の働きに重複があり、目的や範囲が曖昧になっている面があること、限られた人材と予算の中で、多岐にわたる働きを推進していくことが困難になっていることがある。

また、予算においては、常置委員会より負担金を各教会・伝道所の経済的実情にかんがみ2％減額することが提案され可決された。

三役選挙結果

【議長】柴田もゆる（廿日市）、【副議長】東島勇人（益田）、【書記】小畑太作（宇部緑橋）

常置委員選挙結果

【教職】金澤正善（小郡）、草地大作（防府）、大川清（岩国）

【信徒】土井桂子（廿日市）、栗原通了（福山東）、島敞史（宇部緑橋）

（嶋田恵悟報）


三役による按手

地域の人々の救いに仕える教会の再建を目指して

第2回教団救援対策本部

5月9～10日、教団会議室にて、教団救援対策本部の第2回会議が開催された。

今回は、第2回常議員会において承認された委員10名（石橋秀雄、岡本知之、雲然俊美、北紀吉、佐久間文雄、長崎哲夫、大村栄、藤掛順一、稲松義人、田中弘志）による最初の会議であった。

まず、救援対策委員会の活動および会計、東日本大震災緊急救援募金の状況などが報告された。

続いて、今回の会議より委員として加わった稲松委員より日本キリスト教社会事業同盟における震災への取り組みについて、また、田中委員より宣教協力学校協議会において把握している被災地域にある学校の状況についての報告がなされた。

さらに、被災地域を抱える教区からの報告を受け、教会等の被害や対応の現状について確認した。

その後協議に入り、教団としての救援活動の基本方針について検討し、主題を「地域の人々の救いに仕える教会の再建を目指して」とし、礼拝共同体の支援（被災教会再建・支援）と、教会を通しての被災地域への支援（特に社会的弱者支援）を行うことを決定した。また聖句については、「わたしたちの助けは、天地を造られた主の御名にある」（詩編124編8節）を選定した。

続いて今後の救援・支援活動について協議し、各教区に調査員を派遣して被害状況等を確認すること、現在行われている「東日本大震災緊急救援募金」（教団社会委員会取扱い）を6月で終了し、7月より「日本基督教団東日本救援募金」（目標額10億円。期間は2011年7月～2015年3月。使途は被災教会の会堂再建・補修支援費5億円、被災地域のための社会福祉事業・キリスト教学校への支援費2億円など）を開始することを決めた。

さらに、支援体制の構築、具体的な支援活動、広報活動について協議したほか、「112246祈りの日」の制定やシンポジウム開催などの提案を受けて検討した（その他、決議事項については、教団救援対策委員会の公式ホームページに掲載）。

次回は、7月5～6日、教団会議室において開催する。

（雲然俊美報）


委員10名による最初の会議開催

消息

岡田則子氏（在外教師）

11年4月20日、逝去。62歳。'73年青山学院大学神学科を卒業、'80年太平洋神学大学院、'91年エピスコパル神学大学院を修了、'96年百人町教会に赴任、08年よりランカ神学大学（スリランカ）に務めた。遺族は弟・岡田正樹さん。

事務局報

教師異動

桐生　辞(主)白川　徹
紀伊長島　辞(主)中山　忍
〃　辞(担)中山倫子
姫路福音　辞(主)田添禧雄
主恩　辞(主)相浦和生
東広島辞(主)小田部三恵子
戸山　辞(主)山田斐章
〃　辞(担)佐野公淳
〃　就(主)佐野公淳
四谷新生　辞(代)山鹿文子
〃　辞(担)小林　護
〃　就(主)小林　護
南山　辞(担)杉本和道
各務原　辞(主)宗像亮二
〃　就(主)杉本和道
五泉　辞(主)玉城　豊
〃　就(主)宗像亮二
塩谷一粒　就(担)佐野明子
西国分寺　辞(代)真壁　巌
〃　就(主)北原葉子
めじろ台辞(主)小野沢照夫
遠州　辞(担)関谷慶太
米子錦町　辞(主)川﨑善三
〃　就(主)小野沢照夫
蕃山町　辞(担)柳元宏史
〃　就(担)関谷慶太
姫路福音　就(主)川﨑善三
兵庫松本通辞(主)林　邦夫
〃　辞(担)林　陽子
〃　就(代)原野和雄
大阪城北　辞(主)大村　清
〃　就(主)林　邦夫
〃　就(担)林　陽子
泉北栂　辞(代)嶺重　淑
〃　就(主)大村　清
紀南　辞(担)本宮真理
〃　就(兼担)本宮真理
くまの　辞(代)田中牧人
〃　就(主)本宮真理
〃　就(兼担)本宮　広
山口信愛　辞(代)鈴木恭子
〃　就(主)柳元宏史
東広島　就(主)相浦めぐみ
平真　就(担)満仲　弘
聖書之友　就(担)金　園播
富士宮　辞(主)福永秀光
深沢　辞(代)林　巌雄
〃　就(主)福永秀光
板橋泉　辞(主)温井　豊
〃　辞(担)温井節子
松江北堀　辞(主)井上　理
〃　就(主)温井　豊
〃　就(担)温井節子
淀川　辞(主)杉本常雄
〃　辞(担)杉本美由紀
〃　就(主)井上　理
神戸栄光　辞(主)白井　進
〃　就(代)西垣二一
伏見　就(担)宮川裕美子

教師退任

唐牛健三、小泉　譲

教師隠退

細川良枝、大沼　隆
白川　徹、大久保進
中山　忍、中山倫子
齊藤善子、田添禧雄
相浦和生、小田部三恵子

教会加入

倉吉復活　倉吉市東岩倉町2276

教会設立

長浦（伝道所より）

教師改姓

宍戸ハンナ→長尾ハンナ
中村奈津子→望月奈津子

2010年度 海外被災者救援募金報告

ハイチ大地震被災者救援募金
総額　17,737,726円

チリ大地震被災者救援募金
総額　7,922,047円

中国青海省大地震救援募金
総額　4,738,178円

パキスタン洪水被災者救援募金
総額　5,963,889円

多くのご献金をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。
全てＡＣＴに送金し、終了いたしました。

第36総会期
日本基督教団社会委員会
委員長　福井博文

部落解放関東教区キャラバン2011

部落解放センターが関東教区に来ます！
各地区で集会があります。みなさま、最寄の集会に、ご参加ください。部落解放、あらゆる差別からの解放への熱い思いを分かち合いましょう。最終日には、狭山現地で大集合決定!!

2011年6月25日（土）～7月4日（月）

《キャラバン隊員》
東谷誠（長）・犬養光博・小糸健介・山口政隆
カンパもよろしくお願いします！
目標20万円
（郵便振替 00140-3-67727 通信欄に「キャラバン」と書いて関東教区まで！）

《くわしくは各地区担当委員まで》
埼玉地区／後藤龍男（和戸教会）0480-22-2424、群馬地区／大賀幸一（前橋教会）027-231-3623、茨城地区／山本安生（鹿島教会）0299-82-9169、栃木地区／佐々木睦子（那須塩原伝道所）0287-65-2309、新潟地区／高橋稔（中条教会）0254-43-3650

Title:sinpou4725kai.ec7 Page:4 Date: 2013/05/28 Tue 14:34:46

東日本大震災 被災教会訪問報告

東北教区《福島》 関東教区《栃木、群馬》

自主避難地域内の原町教会で

5月30日～31日、東日本大震災救援対策本部より、岡本知之副議長、藤盛勇紀幹事の3名が、原発事故の影響下にある福島県の諸教会の調査に赴き、鹿島栄光教会、中村教会、福島新町教会、信夫教会、原町教会を訪ねた。

中でも原町教会は原発から24キロの地点にある。事故の当初は屋内退避、自主避難指示地域となり、関係施設である原町聖愛保育園も市から休園を求められた。屋内退避はその後解除されたが、現在は自主避難区域の指定はそのまま、「緊急時避難準備区域」とされている。それは「乳幼児が立ち入らないことが強く求められる」地域ということである。しかしこの地域の現在の放射線量は福島市の約3分の1である。

約100名いた園児も当初ほとんどが避難したが、4月中旬には20名ほどが戻っていることが分かった。避難先での保護者の精神的な疲れや子どもの体調不調により、戻って来ざるを得ない家庭がある。聖愛保育園は「乳幼児が立ち入らないことが強く求められる」地域で生活せざるを得ない子どもと保護者が孤立して悲惨な状況に陥らないために、4月25日より自主的に保育室・ホールを開放して子どもの遊び場を提供し、保護者たちの交わりの場、悩みを相談できる場を開いた。そのために園長、事務長、保育士数名が無給で奉仕しており、日によっては子どもと親を合わせて20名以上の利用者がある。市も県も「30キロ圏内に子どもは立ち入らないことになっている」と繰り返すばかりで何の支えにもならない。その中で、ボランティアで施設開放を行っているのである。

韓国、済州島出身の朴貞蓮（パク・ジョンヨン）牧師は、このような状況の中、4月21日に着任したばかりである。27名の現住陪餐会員の内16名がこの地に残り、懸命に教会を支えているが、朴牧師の謝儀は当初の予定の半額にせざるを得ない状態である。自主的に保育に当っている保育園職員の給与も、積立を取り崩して支払っているが、いつまで続くか分からない。

原発事故と行政の無策の中で苦しんでいるこの教会と保育園を支えることは、主が我々に与えておられる大切な使命であると思う。

朴牧師の以下の文章が心を打つ。

「災害の後、人々の心が定まらず迷いと怖れの中にある時はカルト宗教やオカルトが人々を惑わし、自分たちの利益のために人々を利用しますから、わたしたちは賢い乙女たちのように油を備えてキリストの光を灯し続けて行く使命があることを改めて示されました。自分たちにとっても、毎週、礼拝をおささげ出来ることがどれほど大きな恵みであるかを噛みしめているこの頃です」。

（藤掛順一報）

左から、藤掛委員、朴貞蓮牧師、岡本副議長

関東内陸部諸教会にも被害

海岸部に比べて知られていない、と言うよりも、どうしても関心度が低いが、関東教区、栃木県・群馬県の内陸部にも、大きな地震被害を受けた諸教会がある。5月8～10日、教団新報から記者2名が、諸教会を駆け足で訪ねた。

宇都宮教会の被害が深刻だ。礼拝堂の天井や壁に無数の亀裂が走り、応急的処置をした後から余震のために新しい亀裂が出来、最早対応が困難な状況だ。壁は大谷石で造られ、独特の趣があって、教会員は強い愛着を持つのだが、しかし、耐震的には脆弱だ。「補強では間に合わない、建て替えた方が合理的だろう」と案内してくれた役員はつぶやく。木村太郎教師は、福島新町教会の出身、似たような状況にある母教会を「不謹慎に聞こえるかも知れないが、劇的に倒れた方が決断が着いた」と思いやる。

伊勢崎教会は、素人目には酷い亀裂は無いようだが、礼拝堂の基礎部分や外壁内壁に多数のひび割れがある。「専門家による簡易診断の段階で、継続使用は危険と診断され、礼拝等の集会は、別棟の集会室で持っている。スペースと機能の面では何とか足りているので、逆に、礼拝堂の将来像を画きにくい面がある」と、福士卓士教師。ここも、天井が高く美しい建物だけに、教会員の思い入れは強いそうだが。

一方、桐生東部教会では、古い建物と新しい建物の間に構造上の隙間があり、地震の時にはクッションになるだそうだ。その役目を果たしたものの、結果、破壊された箇所が今は雨漏りの原因になる。耐震上理想的には、この隙間・クッションをより大きくする必要があるが、それには莫大な費用が要る。「他の地域の深刻さを思えば、最低限の対応を自力でしなくてはならないと考える」とは、小野團三教師。被害を受けたからこそ、より被害の大きな教会を思いやる。

他に、宇都宮上町、西那須野、四條町、上尾栄光、の諸教会、そして被害甚大なアジア学院を訪ねた。

被害状況も、対応策も、素人目には容易に判断ができない。決断するのは当事者教会以外にはない。それだけに、協力体制・援助の具体化が待たれている。

「教区が一丸となって、一つの幻を持って」と疋田國磨呂関東教区議長（当時）は強調した。教団・教区の迅速で手厚い対応が待たれる。

（新報編集部報）

宇都宮教会、表面的には被害軽微に見えるが、実は

ひとときの人

仁科佐保子さん

神対象の生き方へ

仁科佐保子さんの洗礼への歩みをまずたどる。キリスト教主義の幼稚園で礼拝があり、卒園記念に聖書をもらったものの、その後開くこともなく、公立の小学校から中学校に進む。高校進学を考えたとき、それまでの他者と比較する価値観の世界とは異なる世界を求め、自由学園に希望をもって入学。その期待は裏切られることはなかった、と仁科さんは言う。

自由学園に高等科から入学し、最高学部2年課程までの5年間を過ごした。その間は千葉の実家を離れて学校の寮生活。寮生活では、生徒の自主性が重んじられた。毎朝8時10分の礼拝と夕礼拝があり、特に、夕礼拝は学年に関係なく、順番に生徒が担当。そのような生活の中で、日々起こるさまざまな事柄を神様との関係で捉える、人対象ではなく神対象という生き方を、そして、神様のまなざしのもと、目の前に与えられた務めを一生懸命に果たすという姿勢を教えられ、人生の指針となった。

その後、結婚。長男の尚之くんが教会学校に行きたいと言い出し、ご近所に住んでいた東久留米教会のIさんにお願いしたことがきっかけで、教会に通うようになる。生活環境にさまざまな変化があり、2年ほど後、神様にすべてをゆだねる生き方を確固としたい、決断しなければと思い、洗礼を志願し、1994年のクリスマスに浅野悦昭牧師から洗礼を受けた。

昨年末職場で、学期末の忙しい中、くも膜下出血に倒れたが、原因となるこぶは見つからず、5日ほど後には、脳内に広範囲に広がっていた血液も消え、奇跡的な治癒を得た。

入院中、詩編103編「主はお前の罪をことごとく赦し／病をすべて癒し」との聖句が示され、大丈夫なんだ、神様がまだ生きなさいと、そしてこれまでの生き方を省みるようにと言ってくださっているのだという思いを強く与えられた、とのことである。

東久留米教会員。現在、自由学園の幼児生活団（幼稚園）で、幼児の教育にあたっている。

ローカルでグローバルなキリストの体

東日本大地震によって被災し、今もなお悲しみの中にあり、困難な日々を送っておられる方々に心よりお見舞い申し上げます。

この度の震災は、大規模な地震、想定をはるかに超える大津波、そして放射性物質の放出に至った福島第一原子力発電所事故により、その被害状況の全容把握さえも困難な大変な災害となっております。そして、被災された方たちへの救援・支援対応においても、予測しない、あるいは予測できない困難な事態が多く起こっております。

そのような中で、海外から訪れたキリスト教関係のボランティアの活動が目にとまりました。被災地にあっては、ボランティアによってもたらされた問題や課題ということもありますが、あるキリスト教関係のボランティアが被災した教会の清掃などの活動をしている様子を見て、あらためてキリスト教会というのはグローバルな存在なのだなということを思いました。被災地において、場所によってはかなりローカルな地域にグローバルな支援の手が伸べられているのです。教団事務局においても、地震発生後直ちに海外からの安否確認などのメールが届き、支援の申し出があり、お見舞いの訪問団が多数来られるなど、あらためて教会が相互に祈り、また祈られているということを世界的な視野で受けとめる必要があることを実感した次第です。困難な日々が続く中、さらに、〝ローカルでグローバルなキリストの体〟として、共に主のみわざに励んでまいりたいと願います。（教団書記 雲然俊美）